

第29回与謝野町地域公共交通会議 会議報告書

■日 時 令和2年2月18日(火) 午後2時から3時40分まで

■場 所 岩滝保健センター 2階 会議室

■出席者

山添 藤真	岩崎 靖彦	糸井 和之	山村 義信	笹岡 洋一
小西 正芳	小塚 敏郎	河邊 時寛	渋谷 卓司	佐賀 義之
林 忠広	村上 章	小池 大介	田辺 茂雄	

■代理出席者

小寺 睦男	中田 匡徳	柴山 進
-------	-------	------

■欠席者

井隼 雄一	阪口 孝二	嶋本 卓男
-------	-------	-------

■事務局

小谷 企財補佐	成毛 企財係長	本田 企財主事
---------	---------	---------

会議の要点

- 与謝線、福知山線の再編後の実績を報告。引き続き分析を続ける。
- コミュニティバスひまわりの運行について実績と事業評価の確認。
- 地域間幹線系統の見直し案について承認。
 - ・病院線については令和2年度10月より提案①のとおり、コミュニティバスひまわりについては提案②のとおり進める。詳細は次回、春の会議で決定する。
- 宮津市の公共交通空白地有償運送について、与謝野町への乗り入れを承認。
- 病院線についてフィーダー補助金を申請する場合、与謝野町地域公共交通会議に京丹後市が委員となる必要があるが、会議設置要綱の改正は行わず、要綱の文中で読み取る。
- 平成30年度の200円レール利用実績、高齢者運転免許証自主返納事業の利用実績について報告。

■会議内容

1. 開会

配付資料の確認、出席状況の報告

会長あいさつ(割愛)

2. 議事

(1) 地域間幹線系統(丹海バス路線)の運行実績について

- ・上限200円バス利用実績について
- ・与謝線・福知山線の再編後の利用実績について

【概要】

- 資料1に基づき事務局から説明。令和元年度については上限200円バス制度を導入時から目標としていた利用人数2.0倍、運送収入1.00倍を達成した。与謝線・福知山線の再編後はまだ3ヶ月しか経過していないため、分析が出来ていない状況。今後も引き続き分析を続ける。

委員：福知山線の定期券売上実績の単位は千円ではなく円の間違いではないか。
事務局：ご指摘のとおり間違えておりました。修正をお願いします。

(2) コミュニティバスひまわり運行実績及び事業評価について

【概要】

○資料2に基づき事務局から説明。

- ・コミュニティバスひまわりの運行にかかる国庫補助金の申請にあたり、令和元年度の運行事業の事業評価を行っている。
- ・平成31年4月1日より運行日を週3日から週2日に減便したが、令和元年度実績は前年度実績と比較すると利用者数、運賃収入ともに前年度並みの実績を達成した。しかし、路線ごとに見ると、加悦奥・石川線では利用者数が約2割の減少となり、曜日の変更にもなう利用者の減少が奥滝線に比べて大きくなった。
- ・減便してからまだ期間も短いため今後も引き続き分析を続けていく。

(3) 病院線及びコミュニティバスひまわりの再編の方向性について

【概要】

○資料3に基づき事務局から説明。

- 路線再編に係るこれまでの与謝野町地域公共交通会議内での議論を振り返り、10月1日からの病院線の再編およびコミュニティバスひまわりの再編内容を議論。
 - ▷病院線を峰山から四辻までの区間に短縮し、現行の与謝の海病院、石川、岩屋区間は運行しない。運行しない岩屋区間についてはコミュニティバスひまわりを運行し、買い物を目的とする方々の移動手段を確保する方向で調整する。バス停やルートなどの詳細については次回の与謝野町地域公共交通会議にて決定する。

(4) 福祉有償運送事業登録団体の更新承認について

【概要】

○資料4に基づき委員から説明。

- ▷令和元年度利用登録者数は12月末現在で219名、延利用者数は1,376名で前年度比175名の減。運行キロ数は14,284人/kmとなり、前年度の16,612人/kmに比べて約1,500人/kmの減となっている。
 - ・委員（質問）：17頁の料金体制の見直しは行っているのか。それから近隣の自治体の社協と比較するとどうか。
 - 委員（説明員）：従来から基本はタクシー運賃の半額としており、現在もその値段設定で見直しは行っていない。近隣では宮津市が先日の宮津市地域公共交通会議で値上げが承認された。これは元々の値段設定が安すぎたということが原因と考えられる。伊根町は行き先に買い物が可能ということを知っており、与謝野町とは違うものと考えている。
 - ・委員（質問）：運行管理の体制等を記載した書類の中で、岩滝事業所の運送に係る責任者の氏名、事故処理連絡体制の運転者の欄が空白となっているが。
 - 委員（説明員）：12頁の(ウ)について中田真由美氏の名前が抜けている。修正をお願いします。
 - ・委員（質問）：アルコールチェックと運転手点呼の方法、また運転手の定年の設定はどうか。
 - 委員（説明員）：アルコールチェックと車の点検を対面で実施し、運転手の定年については72歳の誕生日末としている。
 - ・委員（質問）：運転の範囲は京丹後市まで行くが、福知山市や舞鶴市は考えていないのか。
 - 委員（説明員）：距離が遠くなると、運転手が行ったきりで1日が終わる。基本的には公共交通を利用してもらい移動をってもらうことを原則と考えており、現在の範囲の利用とし、今後も範囲を広げることは考えていない。
 - ・委員（質問）：登録者数の推移は増えているのか、減っているのか。
 - 委員（説明員）：2頁を見ていただくと、令和元年度は昨年度の236名と比べ17名の減となっている。施設入所が増えたなどの理由で少しずつ減っている。
 - ・委員（質問）：原因として対象者が減っているのか。
 - 委員（説明員）：3頁を見ていただくと30年3月末に261名、同年12月末には236名、令和元年12月末では219名と減少していることが分かる。実際の利用人数は月に100

名を超えているが、利用者が施設に入所された、登録をしていたが、身体的な理由等により利用を止めるなどの理由により利用人数も少しずつ減っている。

(5) 宮津市における公共交通空白地有償運送の実施について

○資料5に基づき事務局から説明。

- ▶運転士不足に伴い、宮津市内の枝線バス路線を平成31年4月1日から減便、フリー乗降区間の廃止等により再編を実施。現状の路線についても運行が令和2年3月31日までとなっており、代替案の検討が求められており、先日2月12日の宮津市の地域公共交通会議にて「公共交通空白地有償運送」の実施について協議が整ったという経緯がある。今回、養老・日ヶ谷地区において実施予定の事業について、乗降場所が与謝野町域にかかることから、本日の与謝野町地域公共交通会議内で承認をいただきたい。
- ▶運行日は月曜日から土曜日、祝日や年末年始などを除く日を想定。与謝野町内の乗降場所は与謝の海病院、いとうクリニック、コメリハート&グリーン岩滝店の3箇所。利用者は養老・日ヶ谷地区に在住の方のみで与謝野町民の利用はできない。
- ▶異議なしで承認

(6) 与謝野町地域公共交通会議設置要綱について

○事務局から説明。

- ▶病院線再編の関係で、国へフィーダー補助金を申請するにあたり、京丹後市と与謝野町の2市町をまたがることから、両市町の地域公共交通会議での協議が必要となる。そのため、京丹後市、与謝野町の会議に相手方の市町職員を委員に委嘱する必要があるかを議論したいが、事務局案として、設置要綱内にある第3条第2項に挙げられる” (8)その他町長が必要と認める者”で読み取り、規則改正を行わないことで対応することとしてよいかお諮りしたい。
- ▶異議なしで承認

(7) 公共交通利用促進事業の実績について（報告）

- ・丹鉄高齢者片道200円レール事業について
- ・高齢者運転免許証自主返納事業について

○資料6に基づき事務局から説明。

- ▶令和元年度丹鉄高齢者片道200円レール実績について、累計利用実績は28,575人となった。単年度の利用で見ると、令和元年度は12月時点で3,267人であり、昨年と迫る人数まで伸びており、定着してきていることが分かる。引き続き利用促進を続ける。
- ▶令和年度高齢者運転免許証自主返納事業実績について、令和元年度は12月時点で95人が利用し、昨年度の利用よりも増加し、過去最高の利用となっている。内訳では日交タクシー利用券(20,000円分)が58人で一番利用が多く、丹海バス回数券(20,000円分)の交付が35人と二番目に利用が多くなっている。

(4) その他

- 近畿運輸局岩崎運輸企画専門官より、令和元年度、地域公共交通再生法の改正、バリアフリー法の改正が2月に閣議決定され、特に地域公共交通活性化再生法は、4月に改定され、網形成計画の名前が変わり、策定が努力義務となる。与謝野町で作られるのであれば、与謝野町内の公共交通を考える計画となるが、鉄道、バス、タクシー等のすべての公共交通を守っていくために、京都府が主導となり2市2町で一つの計画を作るのも手ではないか。広域で考え、基幹の公共交通としてみなさんで守っていくためにはどうすればよいか、考えるのが地域公共交通会議の役割。町が公共交通をどうするか考えるのではなく、会議のみなさんがどのように守っていくのかという考え方をしないとイケない。観光客以外では学生の利用が多いが、地域に根差していただこうとすれば、便利な移動が求められる。バスや鉄道などの地域交通があれば移住・定住につながる可能性もある。人口減少の対策のためにも、若者をどうすればよいか、といったことを考えなければならない。
- 丹後海陸交通株式会社林営業部長より、現在の社内の状況を報告。今日の会議でも運転士不足がキーワードとして何度も言葉として出てきたが、昨年度より現在のところは回復している状況。しかし、乗務員の人数が回復したのではなく、採用強化として丹海バス社内で免許獲得の支援や嘱託職員の正職員化、また沿線市町とバス路線を再編し、仕業の人数が減った結果、稼働が改善した状態。一方で働き方改革が行われ、今後も高齢ドライバーの定年退職も予測されるため、採

用強化に努めながら運行を進めていきたい。また、整備工員が不足していることが今の課題。ぜひ皆さんからも丹海バスで働く方がいれば情報をお願いしたい。

○今後も持続可能な公共交通を考えていくため、お世話になりたい。次回会議については春に開催予定。

4. 閉会